

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

～ 改革と周知 ～

第63号

2019.9



香川大学教育学部と附属坂出学園は、幼稚園と小学校の接続、小学校と中学校の一貫した学びをより重視し、学校園に係わるソーシャルキャピタル（人とのつながり）を一層活かせる学校になるための改革案を構想しています。香川大学教育学部と附属坂出学園がしっかり連携し、関係する皆様のご理解を得ながら、この改革案を実現していきたいと思えます。

香川大学教育学部 学部長 毛利 猛



有識者会議の報告書を受け、全国の附属で改革が進んでいます。複数の附属を抱える香川大学は全国的にも注目されますが、大学や附属の先生方がご苦勞されて改革案がまとまりつつあります。坂出と高松の役割分担を明確にし地域貢献を更に充実していくもので、文科省も現段階では高評価のようです。私たち保護者もより良い附属学校になるように後押ししていきましょう。

全国国立大学附属学校PTA連合会 会長 神余 智夫

## 坂出学園改革コンセプト ～人が集まる魅力ある学園～

### 香川に生きる人をつくる幼小中の一貫教育



#### I 一貫した学び

- ・ 12年間の共通した学習観
- ・ 幼小中の滑らかな接続
- ・ 12年間の子供と保護者の心の支援



#### II インクルーシブな学校文化

- ・ 新しい障がい観の浸透
- ・ 発達支援・ユニバーサルデザインの視点からの充実
- ・ 地域のセンター的役割



#### III 地域コミュニティ

- ・ 人が集まる学園に（地域に開く生涯学習の場）
- ・ 教育人材の開発
- ・ 防災啓発コミュニティの場



#### IV 現職教員の資質向上に貢献

- ・ 県市町教育委員会とのコラボ研修
- ・ 子供のいる実践的な教員研修の場の提供
- ・ 香川の教科研究団体の運営
- ・ 異校種教員研修モデルの提供
- ・ 教職大学院の指導教員併任と実践システムの確立

#### V 幅広い意味のモデル提供

- ・ 働き方改革に向けた実践事例の提供
- ・ 国が進める「体験的学習活動等休日」の実施例の提供
- ・ 幼小中特支の合同運動会の実施モデルの提供
- ・ いじめ、発達障害、SNS、心の問題等の現代的課題に対するPTAとの合同研修会のモデル提供



○ 環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

入園してすぐは不安がいっぱいで、先生の傍や砂場などの安心する場所で過ごしながら、居場所を探していました。朝の準備に気持ちが向かない子もいますが、幼稚園ではお家から着てきた制服は心の居場所として受け止め、自分から着替える姿を待つことも大切にしています。折れない心が育つまでじっと待ち続けます。



先生の傍で

5月中旬、居場所が少しずつ見付き、友達と同じことをしてみたり、会話したりと小さなやり取りが始まりました。また、水や砂に親しむ中で楽しさを感じ、何度もやってみる姿が生まれます。園庭の草花や作ること描くこと等、様々なものやことと出会う環境の中で、どんどん世界が広がっていきました。年長・中児の姿も驚くほどよく見えています。虫取りや色水づくりなど、見よう見まねでやってみる中で、「面白いな」と感じたり「不思議だな」と考えたり、優しく教えてもらって楽しさをため込んだりと、何事にも代え難い体験をしています。



心ゆくまで泥に親しんで

【年中児】

全身のバランス能力が発達してくる時期。思い切り園庭を駆け続けたり、様々な材料や道具を自在に用いて作ったりすることを楽しむ中で、「明日も〇〇がしたい」「〇〇ちゃんと一緒に遊びたい」という気持ちが膨らんでいました。毎日繰り返される氷鬼や砂場でのコースづくりは、ルールが作られたり、壊れにくい構造になっていたり、試行錯誤を繰り返しながら協同してつくった過程が見て取れました。今年度は連日、砂場から園庭へ流れる大河が出現。「悪魔の河」と名付けて、水の行方や泥・砂・水の感触を十分に楽しみました。



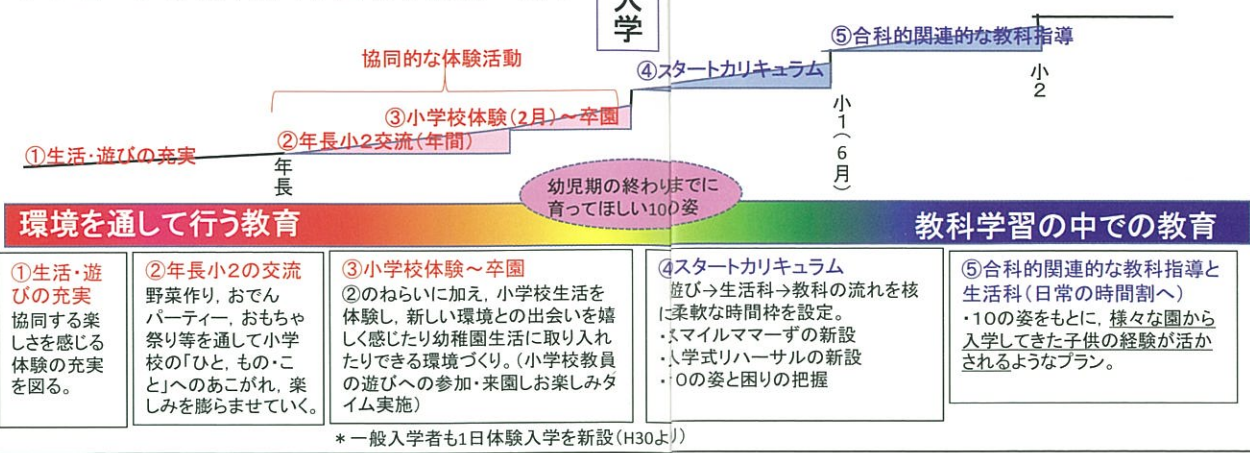
発見!悪魔の河の終点はここだ

想像する力も豊かになり、大好きなヒーローやプリンセス、お化けなどになりきることも楽しみました。その中で、少しずつ友達と役割や役割を合わせようと話し合う姿が見られはじめ、イメージの世界が広がっていく面白さとともに、友達と一緒に創り上げていく充実感を存分に味わっていた子供たちです。



忍者に変身

学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



② 年長児・小学2年生の交流

虫取りや泥団子づくりの技術は天下一品。けんかの仲裁から行事の準備まで、なんでもできる頼れる年長児です。年中児や年少児から向けられる憧れの目を感じ、ため込んだ自信が、これからの挑戦や試行錯誤、考え合う姿の根っこになります。



始業式の準備はほくらに任せて



2年生と一緒にヤゴをゲット!

5月から、2年生との交流活動が始まりました。一緒に遊んだり活動したりする中で、2年生の工夫する姿や伝え合う姿、表現する姿などから刺激を受け、幼稚園の生活に知恵と活力を入れ込んでいます。

7月、互いに育てた夏野菜で料理を作って、パーティーを開きました。緊張しながら足を踏み入れた教室でしたが、2年生と小学校の先生の笑顔を見て少し安心。さらに、テーブルの上に並べてくれたピーマンとナスのピザのいいにおい、パーティーへの期待が膨らみました。なんと2年生は、100人分の料理をたった20分ほどで完成させたい!その実力にびっくりしました。「まだまだ自分たちも、年中児や年少児にしてあげられることがありそうだな」と感じた瞬間でした。一緒に食べながら目の当たりにした2年生の姿に刺激を受け、いつも以上に食欲旺盛になった人もいます。



小学生からパーティーに招待されたよ

「幼稚園でもう一度パーティーをしたい」自分たちの生活を豊かにするアイデアと意欲が生まれてきたことでしょう。

③ 体験入学と入学式前日のリハーサル

2月7日入学周知会を利用し、一般入学者、連絡進学者合同の体験入学を行いました。学校探検や小学生とのふれあいで期待が膨らみました。



小学校って楽しそう

入学式前日、会場準備が整った後、希望者によるリハーサルを行いました。式の流れや呼名を経験することで安心して入学式を迎えられました。



いよいよ明日は入学式

成果 (保護者アンケート調査より)

方法: 一斉メールシステムを利用し、入学よりスタートカリキュラムが終了する5月半ばまで、金曜日に、「①お子様は学校が楽しいと感じていますか」「②お子様は学校生活に不安を感じていますか」について4件法(はい、どちらかといえははい、どちらかといえはいいえ、いいえ)と自由記述で尋ねた。結果: 楽しさ保持率(①に肯定的な回答をした割合)は、体験入学後100%、入学3日後98.2%、5月中旬93.3%といずれも高かった。不安感保持率(②に肯定的な回答をした割合)は、体験入学後61.5%、入学3日後37%(昨年度55%)、5月中旬11.4%(昨年度17%)とスタートカリキュラムを実施していなかった昨年度に比べ、入学後の不安感が激減した。自由記述では、スタートブックや附属小型連絡帳(本校HP参照)、PTAウェルカムパーティーのピアサポート(p11参照)により、学校の様子や子供の楽しみと不安がよく分かりとてもよかった。調査があることで親子の会話がはずみ、なかよしタイムでいろいろな物や人とかがわったこと等をたくさん話してくれて親としてもうれしいと好評であった。

○ 教科学習の中での教育へ

⑤ 合科的関連的な指導へ



生活科「元気な野菜や花を育てるよ」



国語科「登場人物の気持ちを想像して劇で表そう『とんこととん』」

幼児期のあさがおななどを育てたときの感動体験を活かし、栽培範囲を広げ新しい友達と協力して栽培できるようにしました。

作物や友達と積極的にかかわり学びを深められています。

幼児期に親しんだ読み聞かせ、絵本、ごっこ遊びなどを活かし、小学校で初めて学習する文学「とんこととん」を叙述をもとに劇化する学習を行いました。

登場人物の気持ちを自分事のように捉えることができました。

④ スタートカリキュラム(朝のなかよしタイム)

登校から約45分間、新しい友達や先生と仲良くなる時間を設けました。積み木、折り紙等、経験したことのある遊びを用意することで、自然と友達や先生やママーズさんと交流する様子が見られました。



積み木を重ねて



スマイルママーズさんと紙風船



幼小連携支援員さんとなわとび



仲良くドミノづくり



### 小6外国語科(中学校教員とコラボ)



中学校での授業をイメージして

小学校の6年生の全ての外国語科の学習において、中学校の英語科の先生に来ていただき、担任と共に授業を行っています。授業の中で、正しい発音を示していただいたり、正しい文法を意識できるような声かけをしていただいたりしています。授業の中で、子供たちは、中学校の先生に英語でインタビューする等、様々なやり取りをしながら楽しくコミュニケーションをとることで、自然に信頼関係を築き、中学校での英語学習に聞きたいことがいっぱい期待を膨らませています。



小学校の先生に英語でインタビューする等、様々なやり取りをしながら楽しくコミュニケーションをとることで、自然に信頼関係を築き、中学校での英語学習に聞きたいことがいっぱい期待を膨らませています。

### 香川大学教育学部 齋藤嘉則教授より

現在、小学校、中学校の英語指導の要諦は校種を超えた連携、協力、コラボです。附属坂出小中ではこのことに日常的に取り組み実践していて、子供たちの学びが着実に進んでいます。小中一貫教育の大きな成果です。さらに、地域のモデルとして地域貢献も果たしています。この貴重な取組が継続され、発展されることが大いに期待されます。



### 小中合同研修

本年度より、小中教員がお互いの研究授業を参観し、討議を重ねる取組を始めました。

小学校教員は、中学校での学びを意識することで、小学校段階でどのようなことを学ばせておくべきかを考えながら参観し、自身の授業の在り方を見直すことに役立てています。中学校教員は、研究テーマである「ものがたり」の授業につながるメタ認知を働かせている子供の様子に関心をもって参観し、小学校での学びや、それを基にした中学校での学びの在り方について、活発な意見交流を行っています。

お互いのよさを取り入れながら、一貫した教科学習を充実させていきます。

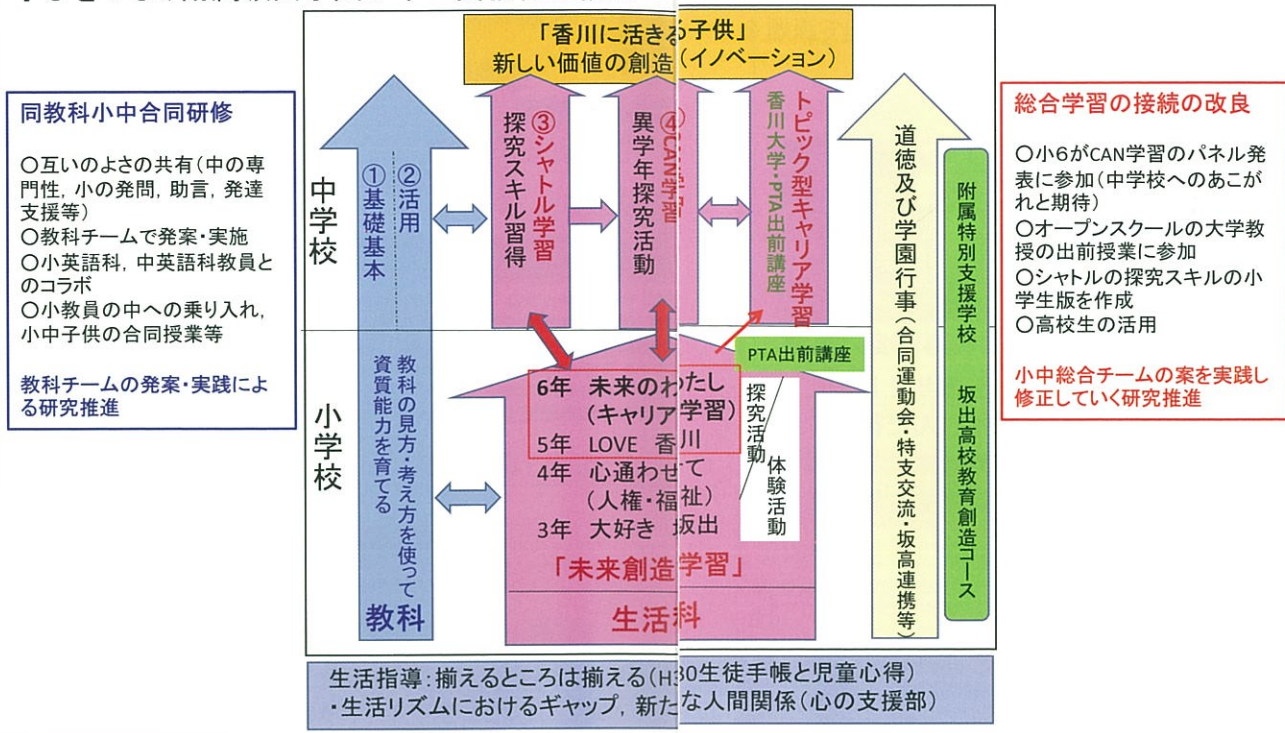


中の研究授業に小教員が参加



小中のよさを学び合う研修会

### 学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



### 小学校の総合的な学習の時間(「探究スキルブック」の活用)

小学校の未来創造学習(総合的な学習の時間)では、中学校のCAN学習につながる探究スキルを育てるため、シャトル学習を参考にした「探究スキルブック」を小中で共同開発し、活用しています。課題設定のためにブレインストーミングを行ったり、課題探究のためにインターネットで情報の収集・精選をしたりしています。スキルブックの活用で子供たちの主体性も大きく育っています。



ブレインストーミングのスキルを

### 秘伝 その1 「問いつくりマスター」

これができれば「問いつくりマスター」だ!

知っていることをたくさん出して、調べたいことが見つかったら「問いつくりマスター」だ!

こんな話し合いがいいよ

- ① 批判しない
- ② 自由に言う
- ③ とにかくたくさん
- ④ 意見と意見をつなぐ
- ⑤ 調べたいことを決める

話し合いの仕方が分かったら、下のようなお題で一度練習してみようね。

〇〇から問いを作るう  
例「瀬戸大橋」  
「興味のある仕事」  
「坂出市のいい所」

「探究スキルブック(ブレインストーミング編)」より抜粋

### CAN2019 ただいま探究中です

総合学習CANは、「生徒自らが設定した課題を多様な立場の人と協力しながら探究することを通して、自己の成長や可能性を実感し、社会に柔軟に対応しながら学び続けるための資質能力を育成する」ことを目的とした本物の探究学習です。この目標を達成するため、CANでは生徒自らが課題を設定することや、多様な立場の人とつながり、互いの意見や考えを語り合うこと、仮説や見通しをもった探究活動を行うことを重視しています。それらを達成するために次の①、②を重点項目とした手立てと活動を行っています。

- ①語り合い、探究する学びの過程を充実させるために
  - ・ 幅広い分野や視点から疑問や問いを作り出すことができるように、課題設定の際に分類表と3つの視点を与えるように工夫しました。
  - ・ 多様な立場の人とつながることができるように、CANの日を2回から3回に増やすだけでなく、テーマ設定や探究活動、中間発表会で小学校や高校、大学、専門家、保護者などにも参加してもらい、交流する機会を増やしました。
  - ・ 探究深化シートを工夫し、探究のゴールや探究仮説、探究の手立てなどを一枚にまとめ、見通しをもった探究活動ができるようにしました。
- ②「自己に引き付けた学び」を生み出すために

これまでCAN活動を終えた後に、CAN物語を記述していました。今期は、自己の変容を実感し、より自己に引き付けた語りとなるよう、記述の際に与える視点などを工夫しようと考えています。



CANの日に高校生と一緒に探究

### シャトル学習で、CANに活かせる探究スキルの習得を

総合学習シャトルは一般講座と特設講座に分かれており、そのねらいは共通学習における活用と総合学習CAN(以下CAN)における探究とをつなぐことです。今期は一般講座を8時間、特設講座を2時間×2回の計12時間で行っています。一般講座には「実験」「創造」「調査」の3つの分野があり、生徒は自分の探究活動の内容をふまえ、講座を選択します。講座ごとに習得をめざすスキルは異なりますが、どの講座を受講しても生徒は「課題設定」「課題追究」「表現」「自己評価」という探究サイクルを体験することができます。生徒は8時間の中でそれらの探究サイクルを体験することを通して、CANでの探究につながる探究スキルを身に付けることができます。

また、特設講座は探究スキルの習得に特化した講座です。全部で16講座あり、それぞれの探究の過程で必要になるスキルについて学習することができます。生徒は、それらの講座から自分の探究を深めるために必要だと思うスキルを2つ選択し、受講します。この16講座の探究スキルは、小学校の総合学習の時間にも活用されています。



企画書を作ってプレゼンしている様子

### CANのクラスターに小6が参加

小学校の6年生が、中学生のCAN学習に参加し、意見を言ったり、知りたいことについて質問したりしました。6年生の振り返りからは「中学生になったら自分も楽しい研究をしたい」など中学生へのあこがれを抱く様子や「中学生がたくさん調べていてすごかった。自分にはもっと思ったことを話すことが必要だと感じた」など自分に必要なことを見直している様子が伺えました。



小6の質問で盛り上がる話し合い



児童生徒の社会生活や家庭生活に必要な知識・技能や態度を育てるとともに、将来一人としての自立をめざして日々の教育活動を行っています。将来の社会生活に向けてどのような力が育っているか、またこれからどのような育ちが必要かなどの確認をしながら、各部でキャンプや宿泊学習を計画し、それぞれの発達段階に応じて課題を設定して取り組んでいます。

幼小中の養護教諭とスクールカウンセラー（SC）、  
スクールソーシャルワーカー（SSW）がコラボして

香川大学教育学部 心理分野 宮前淳子准教授より

### 小学部 宿泊学習

#### 【日常生活での自立をめざして】

毎年6月に、1年生から6年生まで小学部全員で「やまももの家」で宿泊しています。JRに乗ってイオン坂出まで夕食の材料を買い出しに行きます。一人一人買うものを決めたり、買い物の仕方を練習したり、JRの切符の買い方や電車に乗るときのマナーなど事前学習をしっかりと出かれます。今年、カレーライスや焼きそば、カップケーキを作りました。友達と一緒に風呂に入ったり花火をしたりして楽しんだ後は、広い和室に布団を敷いて寝ました。一つ一つの活動の中にも、個人個人の課題に沿って目標を設定し、日常生活で自立できる力を育てたいと考えています。

毎年6月に、1年生から6年生まで小学部全員で「やまももの家」で宿泊しています。JRに乗ってイオン坂出まで夕食の材料を買い出しに行きます。一人一人買うものを決めたり、買い物の仕方を練習したり、JRの切符の買い方や電車に乗るときのマナーなど事前学習をしっかりと出かれます。今年、カレーライスや焼きそば、カップケーキを作りました。友達と一緒に風呂に入ったり花火をしたりして楽しんだ後は、広い和室に布団を敷いて寝ました。一つ一つの活動の中にも、個人個人の課題に沿って目標を設定し、日常生活で自立できる力を育てたいと考えています。



夕食の材料を分担して買い物

### 中学部 キャンプ大会

#### 【集団生活での自立をめざして】

中学部のキャンプ大会は、野外活動を楽しむこと、自分の役割を果たしながら仲間と協力することをねらいとしています。野外炊事やキャンドルサービス等、主な活動は縦割りのグループで行います。総合的な学習の時間を使って事前学習を行い、夕食のメニューやキャンドルサービスのスタンプの内容、役割分担等は、3年生のリーダーが司会を務め、全員の意見を聞いて話し合いで決定します。買い物や調理の計画を立て、調理の試作やスタンプの練習をして、当日は、自信をもって進んで行動できるようにしています。どのグループも、3年生を中心に声をかけ合って活動し、団結を高めることができました。

中学部のキャンプ大会は、野外活動を楽しむこと、自分の役割を果たしながら仲間と協力することをねらいとしています。野外炊事やキャンドルサービス等、主な活動は縦割りのグループで行います。総合的な学習の時間を使って事前学習を行い、夕食のメニューやキャンドルサービスのスタンプの内容、役割分担等は、3年生のリーダーが司会を務め、全員の意見を聞いて話し合いで決定します。買い物や調理の計画を立て、調理の試作やスタンプの練習をして、当日は、自信をもって進んで行動できるようにしています。どのグループも、3年生を中心に声をかけ合って活動し、団結を高めることができました。



観音寺市一の宮公園海水浴場



グループで確認して買い物



自分の役割を果たして鍋作り



得意を活かしたスタンプの披露

### 高等部 キャンプ

#### 【社会生活での自立をめざして】

1年生と2、3年生で目的を変えて取り組んでいます。1日目は日中活動として校外学習に出かけます。1年生は買い物、調理といったキャンプの基本的な活動を設定し、3学年全員分の夕食（カレー）を作ります。行き先や調理する物が決められている中で、行き方や買い物の分担、基本的な調理の仕方などを身に付けることが目的です。2、3年生は、iPadや自分たちが持っているスマートフォンなどを使って、行き先も自分たちで考え、行き方を調べ、決められた時間までに学校に戻ってくるような計画を立てる活動を設定します。これは、これまでの経験を基に、生徒たちが卒業後の社会生活の中で自分の目的に応じて様々な所へ移動でき、計画的に活動できるようになることが目的です。2日目は、府中湖でのカヌー教室を行います。これは、地域資源の活用や地域とのかかわりを目的としながら、余暇活動の一環として取り組んでいます。このように、「社会生活での自立」をめざして活動ごとに目的を設定しながら、様々な活動に取り組んでいます。



役割分担・協力して夕食作り

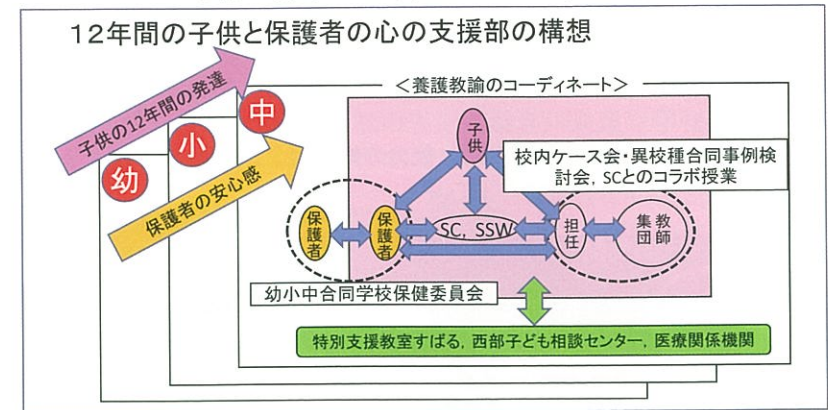


府中湖でカヌー体験



企画・運営も自分たちで取り組むスタンプ

「社会生活での自立」をめざして活動ごとに目的を設定しながら、様々な活動に取り組んでいます。

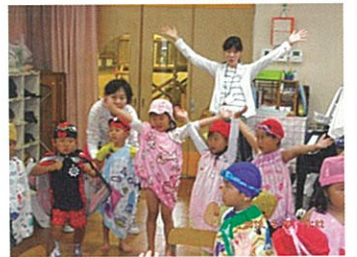


非常に先進的で意欲的な取組だと思えます。目の前の子供をどう支援していくべきか悩むことがあります。その子供の成長のプロセスの中に必ずヒントがあるものです。先生方の支援の積み重ねが共有されることによって、さらに深い子供理解が可能となり、それが見通しのあるかかわりにつながっていくものと思います。



### 安心子育て「さくらんぼの会」発足 ～SCの助言とピアサポート（仲間としてのサポート）～

今年度より、幼稚園のスクールカウンセラーとして配属された入江先生と保護者との座談会が始まりました。その名も「さくらんぼの会」です。さくらんぼの会では、子育てのことや家族のこと、自分自身のことなどを、ほっこり話し合う時間になっています。今まで5月と6月の登園後の時間を活用して2回実施しました。少人数でじっくり話ができるため、参加された保護者の方からは「ゆったりと話ができて気持ちが軽くなった」と好評を得ています。保護者の心の安定は子供の心の安定に直結します。この心の安定が子供たちの新しいことへの挑戦や粘り強く取り組む姿の源となります。さくらんぼの会へのご参加、お待ちしております。



子供たちとのかかわりをもとに

### SCの専門性を活かした授業実践 ～コミュニケーションスキルを高めるSST～

保健室で子供たちと接する中で「自信がない」「自分のことがあまり好きではない」という言葉を聞くことがあります。特に思春期前の高学年にその傾向が強く、子供の自尊感情をどのように取り扱うかということは、大切なテーマです。そこで、担任、養護教諭、スクールカウンセラーが協働し、豊かな自尊感情を育むためのソーシャルスキルトレーニング（SST）を6年生対象に行っています。1学期は「あったか言葉」「共感力」「アンガーマネジメント」のテーマで実施し、子供たちからは「授業でやったことを生活の中でも使いたい」「共感してもらえて安心できた」などの言葉が出ています。ソーシャルスキルの定着には、ご家庭での声かけが不可欠です。授業で取り上げたことがご家族や友達とのコミュニケーションに活かせていたら、ぜひ誉め言葉をかけていただきたいと思います。



SC、養教、担任のコラボで

### 現代的課題に対するPTAとの合同研修 ～アンガーマネジメント～

学校保健安全委員会を、PTAとの合同研修会と位置付け、年2回は、幼小中合同で行っています。7月11日の委員会では、スクールカウンセラー入江先生とスクールソーシャルワーカー藤澤先生による心の支援部の活動報告や、スクールカウンセラー田中先生による「子供の健やかな育ちの実現に向けて～みんなで気持ちを整えるアンガーマネジメント～」の研修、学校医佐藤先生からは、子供の健康課題「熱中症の予防」について指導講話をいただきました。多くの保護者の方々の参加をいただき、気軽に語り合う中で、それぞれが持つ悩みの解決に向けて相談できていました。



学校医佐藤先生の講話

＜保護者の感想より＞  
・ロールプレイでの具体的なエピソードやグループでの話し合いなど、和やかな空間の中で、他の保護者からもたくさんヒントをいただくことができました。親子で上手にアンガーマネジメントをしていきたいと思いました。  
・小学校の保護者の方と話す機会があり、自分自身の体験談やこうすればよかったなど、他の保護者と共有することができ、楽しいグループワークでした。参加してよかったです。



異校種の保護者同士で



幼小中学校と特別支援学校、特別支援教室「すばる」の関係及び公立校への貢献

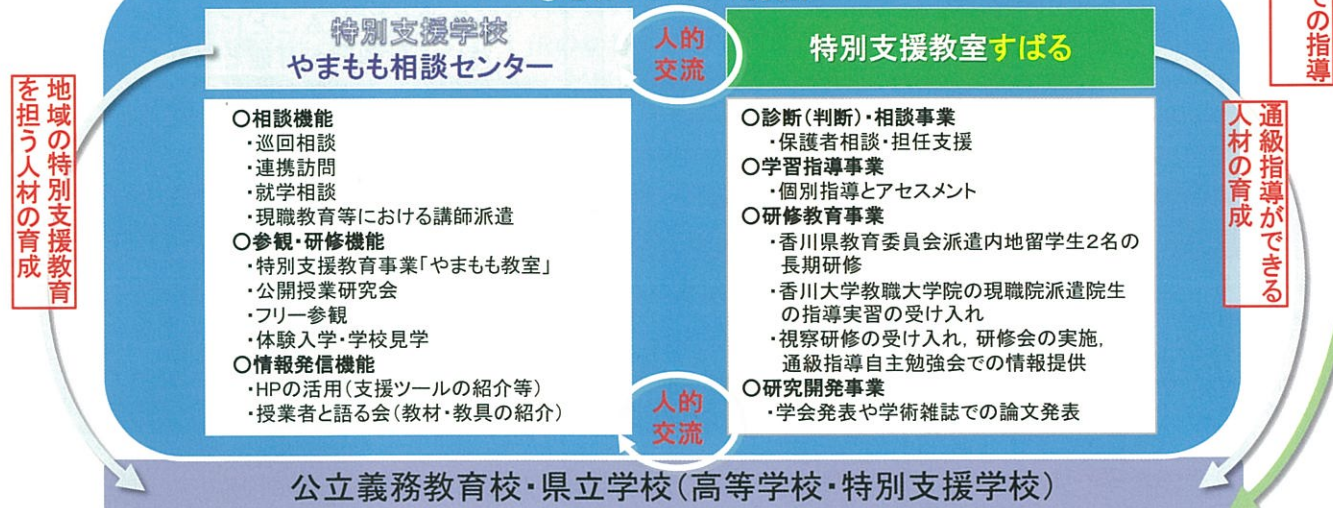
附属幼稚園・小学校・中学校の取組

- ①新しい障がい観の浸透 日常のかかわり(人権感覚)  
 <幼>異年齢交流 <小>特支との交流、介護体験等 <中>親子セミナー、キャリア学習等
- ②発達支援・ユニバーサルデザインの視点からの充実  
 <幼>生活の支援(困りの見とり) <小・中>生活・学習の支援と気質・能力の伸長

助言

研修

③地域のセンター的役割



地域の特  
別支援教  
育を担  
う人材の  
育成

園・通常  
の学級  
での指  
導  
モデル  
の提供

通級  
指導が  
できる  
人材の  
育成

特別支援学校の友達との交流会(小学校)

4年生の未来創造学習では、「つながる・ひろがる 人と人」をテーマに、特別支援学校の友達と仲良くなるための活動を進めてきました。まず相手のことをよく知るために、特別支援学校の先生を招き、友達や学校の様子、交流する時のポイントなどを教えていただきました。また、子供たちが実際に使っているツール



特別支援学校の先生からお話を聞く



ペアのお友達と一緒に遊ぶ

も見せていただき、交流への見通しをもつことができました。また、交流会に向けてビデオレターや自己紹介カードを作りました。どうすれば相手に伝わるのか考えながら作る姿が見られました。そして、交流会本番。子供たちは初めて会う友達と、歌やゲームを通して仲良くなっていきました。自由遊びの時間には、徐々に慣れ、笑顔で触れ合うことができました。今回の交流の経験を、9月の運動会にも活かし、特別支援学校の友達との仲を更に深めていきます。

親子セミナー講演会(中学校)

社会福祉法人ラーフ理事長の毛利公一さんをお招きし、多くのご示唆をいただきました。「ピンチの 때가チャンス」と捉え、「夢や目標を語る」ことの大切さ、そして、それぞれ得意や苦手をもつ私たち自身も「挑壁者」として生きていくことが、自分らしく「よく生きる」ことにつながるのだと実感しました。



夢を語る毛利さん

【講演を聞いた生徒の感想】

- ・話をきいて、自分が情けなくなりました。私はこれから、いろんなことにふれて、体験していきたいです。そして、最期のときに、自分によくやったと言える人生にしたいです。
- ・この講演を聞いて、「ピンチはチャンス」、「夢や目標を語る」ということの重要さを感じました。この講演を聞く前は、夢は恥ずかしくて語るという事はしていませんでしたが、語ることによって実現につながると分かりました。

附属特別支援学校のセンター的役割の紹介 特別支援教育事業「やまもも教室」

附属特別支援学校は、特別支援教室「すばる」と連携して、附属幼稚園・小学校・中学校のインクルーシブな学校文化の醸成に向けた取組や課題に対して助言を行い、研修の場を提供しています。また、「やまもも相談センター」を窓口として、地域におけるセンター的役割を充実させていきます。

附属特別支援学校では、附属学校園だけでなく、県全域の学校・園の先生方や保護者の方へ地域のセンター的役割を果たすことが求められています。今回は、その中の一つである「やまもも教室」を紹介します。

「やまもも教室」は、香川大学教育学部の先生方のご協力を得て、平成6年9月より実施しています。この事業は、育ちに遅れや偏りの見られる幼児児童とその保護者、担任の先生方を対象に、養育や保育、教育支援の仕方を共に考え、幼児児童の自立を支援していくことを目的としたものです。個別相談会や講演会、座談会など年間11回開催しています。5月は、かがわ総合リハビリテーションセンター作業療法士の野香織先生を講師に招き、不器用さのある子供の支援について感覚・運動の視点からお話していただきました。参加者からは、「子供に当てはまる事例があったので、さっそく実践してみようと思う。」という感想が多く聞かれました。



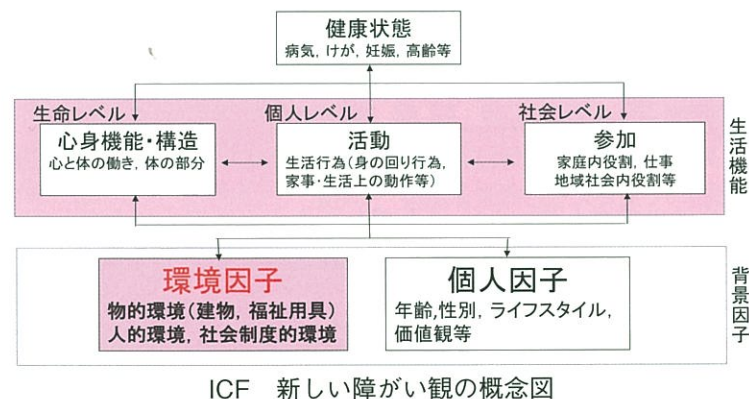
大野先生講話



コラム 新しい障がい観 ICF (国際生活機能分類) とは?

ICFでは「生活機能」が何らかの理由で制限されている状況を「障害」としています。例えば、障害のある人が「買い物の困難さ」に直面する原因には、その人の抱える障害だけでなく、お店にエレベーターがないことや、途中で手を貸してくれる人がいないことなど、いろいろな要因が存在します。つまり、障害を個人と周囲の環境双方からとらえ、人間の状況を全体的に理解することをめざしているのがこのICFなのです。

学校教育においても、これまで以上に環境因子に目を向け、個に応じた合理的配慮が求められています。



ICF 新しい障がい観の概念図

日常の中の年少・年中・年長児の交流(幼稚園)

年長児が虫取りをしているのをじっと見ている年少児がいたり、年中児が砂場から大きな川を流し始めると、だんだんいろいろな年齢の子供たちが集まってきたりするように、幼稚園の生活は、他者との出会いやものやこととの出会いに溢れています。年少児や年中児が年長児に憧れ、「あんな風にやってみよう」と思うことから遊びが生まれ、試行錯誤が始まる場面はとて貴重です。



大きな川に集まる園児たち



みんなで進めるパーティー

年長児になると、互いのよさや得意なこと、興味をもっていることを理解し「～な時は〇〇くんに頼もう」「〇〇ちゃんなら力になってくれるはず」「〇〇ちゃんは～思っているんじゃない？」等、互いに生かし合ったり理解し合ったりする力が育ちます。カレーライスパーティーや夕涼み会の迷路づくり等、クラスみんなで進めていく活動の中で、友達とつながりを意識しながら同じ目的に向かって行動する姿を、しっかりと見ています。友達とつながるよさを味わう体験こそ、人権感覚や協働する態度の基盤になります。



「すばる」での個別指導を通して

附属坂出小中学校では、特別支援教室「すばる」での教員研修を実施しています。「すばる」の教員より「すばる」を訪れる子供の個別検査の結果に基づいた具体的な指導方法について研修を受け、週1回、1時間ずつ計10回の個別指導を行っています。研修を通して、その子にどのような認知特性があるのかについて詳しく聞くことができ、個別指導の最初に「今日の学習内容」を視覚的に示しておくなど、改めて視覚的な支援の大切さを学ぶことができました。



「すばる」の教員から専門的な研修を受ける小学校教員



通常の学級における視覚的支援の取入

また、「すばる」で研修したことを、通常の学級に取り入れることで、全ての子供が意欲をもって活動に取り組めると実感しました。例えば、普段の学習でも、学習活動ごとに何をするのかを口頭で説明するだけでなく、テレビに映して視覚的に示すことで、子供がやることを理解して活動に取り組めるようになります。このような効果的な支援の方法を全学級で取り入れられるよう校内研修で発信しています。

特別支援学校、「すばる」の知を通常学級に活かす取組（小学校での活用グッズの例）

自分の思いを指して表出させる支援



保健室で、痛みを伝える時に指さして伝えます。

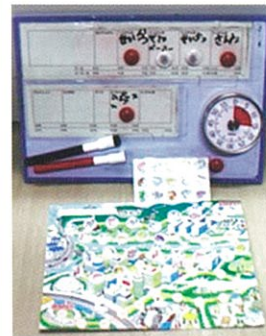


トラブルがあった時や不安に思う時など、自分の気持ちを伝えるのは大人でも難しいです。そんな時、役立ちます。

見通しをもたせる支援



45分の学習の流れを視覚化することで進行状況が分かり安心します。終わったところはカードを裏返すとニコマークが出てきます。



1日の生活の流れも自分で視覚化させることで意識化できます。得意なことと苦手なことを交互にしたり、タイムタイマーを活用したりして、時間の進行状況を視覚化します。できた時のごほうびシールも自分で貼らせ自信をもたせます。夏休みの生活でも活用できそうです。

視覚化して伝える支援



改めたい行動を×で、それにかわる望ましい行動を○で示します。



上手な片付け方を視覚で示し、パズルゲーム感覚でその通りに片付けます。

～ 絆を拡げよう ～

幼稚園

～ALL松韻会で実施 恒例！土曜メンテナンス～

5月25日（土）、恒例の土曜メンテナンスが行われ、総勢119名の方に参加していただきました。幼小中のお父さんたちが砂場の砂を増やしたり、やぐらを修理したりしてくれました。お父さんたちの力のおかげで、園庭がとってもきれいになりました。また、お母さんたちは、子供たちと一緒に園舎内の掃除をしたり、ワックス掛けをしたりしました。親子できれいにしていく楽しさを感じ、保護者同士の交流や連携も深まった時間となりました。



～保護者と学園が共に子供の安全を守る

幸せのオレンジベスト隊～

今年度より、保護者と学園が丸一となって子供たちの安全な生活を守ろうと安全をつくる幸せのオレンジベスト隊が始まりました。幼稚園では、毎月1日、10日、20日を「オレンジベストの日」と名付けて、登園・降園時に着用しています。蛍光色の目立つベストを着ることで、親子で安全に対する意識が高まっています。また、地域の方にも御協力いただきながら、子供たちの安全を守っています。地域の方から「子供たちから元気もらっているよ」と嬉しい言葉をいただいています。



小学校

瀬戸芸のおてっ隊に参加～地域にとけ込む附属PTA～

瀬戸内芸術祭（春開催）会場の一つだった坂出市の沙弥島には7万2千人が訪れ、集客数が直島に次ぎ第2位だったそうです。沙弥島を訪れた人たちに、お茶を接待しようと、坂出市連合PTAの中に、本学園のPTAも入り、学園のたくさんの子供たちが市内の子供たちとともにお接待を行いました。直接、お茶を出すお接待はもちろんのこと、事前に茶器をつくったり、万葉風の衣装を染めたりと普段経験できないことを体験しました。



「緊張したけど、お客様がおいしいとってくれてうれしかった」「自分がつくった茶器が多くの人に楽しんでもらってよかった」「お母さんや他の学校の友達と一緒にできて楽しかった」「沙弥島や坂出市がますます好きになった。たくさんの人に来てもらいたい」と、郷土や人とのつながりを大切に思う心が芽生えています。

地域を持たない附属型コミュニティスクール（人のつながりの組織化と広がり）のよい事例です。

親も子も不安が吹っ飛んだウエルカムパーティー～先輩保護者が大活躍「広がれピアサポート」～

5月18日（土）に開催されたPTA主催のウエルカムパーティーに1年生の子供と保護者等、計183名が参加しました。前半は親子でチームになって新聞のりゲームなどを楽しみました。後半は子供と保護者に分かれ、子供は引き続きゲームやものづくりを楽しみました。保護者は小学校について分からないことや不安なことを先輩保護者に聞き、和気あいあいとした中で、ほっとした表情がたくさん見られました。質問に答えていた先輩保護者さんからは「自分も1年生の頃は同じ悩みをもっていたなあ」「みんな同じ経験をしているんだなあ」「心配ないよと言ってあげられてよかった」などの感想が聞かれ、ピアサポート（仲間としてのサポート）の効果を感じました。企画、運営して下さった役員さん、常任委員さんありがとうございました。





中学校

海外の大学生と外国語で交流しています！

○ コロラド州立大学（令和元年6月3日）

アメリカ・コロラド州立大学より留学生8名を迎え、1年生と英語の授業を行いました。各班に1名ずつ留学生に入っただき、すごろくゲームをしながら英語で自己紹介をしました。生徒は、既習表現のAre you ~? / Do you like ~? / Do you play ~? などを用いながら、知りたい内容を質問したり、留学生が話す英語を友達と協力しながら聞き取ったりしました。

留学生との交流を通して、「英語をもっと話したい」「もっと上手に伝えたい」という生徒の感想が聞かれました。



○ 南ボヘミア大学（令和元年6月18日）

チェコ・南ボヘミア大学より留学生3名を迎え、1年生と英語の授業を行いました。留学生が通う学校の紹介やボヘミア文化について英語で話を聞きました。日本とは違うボヘミアの食文化について、生徒は興味をもって話を聞くことができました。



親和会

みんな楽しい「春の運動会」！

5月11日（土）、附属特別支援学校では春の運動会が開催されました。附属特別支援学校には「附属坂出学園合同運動会」とは別に「春季運動会」があります。小学校1年生から高校3年生の児童生徒に加え卒業生（青年教室の皆さん）も参加します。子供たちは練習の成果を家族に披露するため一生懸命演技をしました。また今年卒業したばかりの皆さんが大勢参加し、プログラムは和気あいあいと進行していきました。保護者の皆さんは積極的に競技に参加し、白熱の真剣勝負を繰り広げ、そして最後は全員が輪になって踊りました。

片付けの時間も参加者全員が協力し、テント、椅子、万国旗、道具類の片付けをしました。今年は例年に比べてお父さん達の参加が多かった様に見受けられました。おかげでより一層後片付けが早かったのかも知れません。前日までの準備では先生方の盤石のチームワークに加え、介護等体験の学生さん達の活躍で完璧な舞台が整いました。先生方、学生の皆さんに感謝申し上げます。

児童生徒、卒業生、先生方、保護者や家族が一体となって、みんな楽しい春の一日でした。



保護者や卒業生も一緒に綱引き



みんなでおどろう

編集後記

新元号「令和」がスタートした今年度、「人が集まる魅力ある学園」をコンセプトに、坂出学園の改革もスタートしました。これまで坂出学園が大切にしてきた「香川に生きる人をつくる幼小中の一貫教育」と「特別支援学校との連携」を広く地域の方々に周知するとともに、さらによりよいものとなるよう改革を進めているところです。63号から68号まで（3年間）の「附属坂出学園だより」を、周知と改革の進捗状況をお伝えする一端にしたいと思います。

時代は令和に変わっても、子供たちの学びと笑顔、坂出学園の充実と発展を守っていきたいと思っております。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

発行年月日：2019.9.1

発行事務局：香川大学教育学部坂出学園